

アルゼンチンの動植物と自然景観

琉球大学名誉教授、JICA シニアボランティア
上里健次

JICA のシニアボランティアとして、2009 年 10 月から 2 年、さらに 3 年後の昨年に 9 か月、アルゼンチンに滞在した。同国北東部にある大学の研究所が要請した「ランのバイオテクノロジー」の職種に応募して認められ、2 カ月余の研修課程を修了した後にアルゼンチンに渡った。結果として、琉球大学定年後に海外生活を、それも南米の異文化社会で得ることが出来た体験は、感謝の限りである。植物分野の研究者ということで、普通には行けない各地域の自然保護区や自然林を訪れ、また都市の緑地公園では、年間を通して散策を繰り返し、東洋とは全く異なる植物の世界を観ることが出来た。沖縄からの移住者も多いアルゼンチンの情報を提供することで、学生諸君の関心が広がることを期待したい。

アルゼンチンを地球儀で確かめると、日本の正反対の南半球にあり、ほぼ逆三角形の形をしており、面積は日本のおよそ 7.5 倍の大国である。亜熱帯気候から南端は氷河に覆われる寒冷気候まで、日本でいえば沖縄からサハリンまで、しかも西部には 4000m を超えるアンデス山脈が連なって、まさしく日本とは全く異なる自然環境の別世界である。

首都ブエノスアイレスの夏季 1 月の月平均最高温度は 28℃、同最低温度は 21℃、冬季 7 月の最高温度は 15℃、同最低温度は 8℃で、夏は暑く冬は寒い温度環境となっている。

JICA のシニアボランティアが、ラン科植物対象の分野で大学の研究室に勤務することは珍しく、そのことで自然保護区域や原生林、パタゴニア、アンデス山脈などに出かける機会に恵まれたことは、これは幸運であった。

熱帯花木は沖縄にも多くの樹種が導入されて一般化されているが、アルゼンチンでは殆どが大木で樹形が良く、花盛りとなる開花性に優れたものが極めて多い。アルゼンチン原産で国花のアメリカデイゴは、沖縄でも見かけるが全くの別種と思えるほどの大木で、また半つる性のブーゲンビレアは何と 30 c m 径の樹木となって育っていた。導入植物のハウオウボクやゴールデンシャワーの開花も、沖縄ではまず見ることの出来ない咲きかたを示して圧巻であった。

世界の植物図鑑にも記載のない、デイゴとハイビスカスの仲間には驚かされ、何よりも世界で最も美しいと言われるノウゼンカズラ科の 2 種、ジャカラндаとラパーチョは、名実ともに別格の、目を奪われるほどの美しい花木であった。

アルゼンチンはまた野鳥の天国で、およそ 1000 種が全国の山野に特異的に分布して生息しているが、首都の緑地公園でも、おびただしい数の野鳥が飛び回って、週末の散策は楽しみであった。アメリカ大陸のみに生息するハチドリは最も写真撮影が困難とされているが、トックリキワタ、ハイビスカス、アメリカデイゴ、ヒカンザクラでのホバリング写真が、予想を超えて撮影出来たのは何よりであった。

圧倒的水量を誇るイグアスの滝と、氷河の崩落が美しいペリートモレーノの自然公園は、名実ともに世界の絶景の双璧である。その他にもパタゴニア、ビーグル海峡、アンデス山脈など、総じてアルゼンチンは、現在でも豊かな自然が残る世界で唯一の大国である。